

# 会越・井戸の沢左俣右沢～922m～左沢

小沼 充範

■山行年月日:平成 30 年 6 月 2 日  
～3 日

■メンバー:小沼充範(単独)

6月2日。蒲生川林道9時15分出発。ゼンマイ、コシアブラを採りながら持場沢右岸のゼンマイ道を歩いて行く。井戸の沢出合10時着。井戸の沢に入り、マルゼミが鳴き新緑の広がる沢を30分ほど遡行すると、右俣と左俣の出合いとなり、中間部のテラスはかつてゼンマイ小屋があった場所であり朽ち果てたドラム缶が残っている。日当たりの良いこの場所にテントを張り、井戸の沢左俣をつめ922mへ登る。

左俣は新緑のブナ林に囲まれた穏やかな流れである。546m地点を過ぎると雪渓となり、右岸に大きな岩壁を仰ぎ見る。雪渓を過ぎると二俣となる。今回は右俣を遡行して922mに登り左俣を下降する。右俣は容易に県境へ行くことのできるルートである。県境稜線は歩きやすく、922mの手前だけ藪が少し濃い。922m山頂13時50分着。遮るものが何もない山頂で展望がとても良い。燧ヶ岳、丸山岳、浅草岳、守門岳、中の又山、駒形山、御神楽岳、蒲生川流域の山々を見渡すことができ飽きることがない。去年は南面の沢を懸垂下降することなく持場沢へおりた。14時25分下山開始。

井戸の沢左俣左沢は滝が多い。今回で2度目だが、こんなに滝があるとは思わ

なかった。10m滝を右岸から巻いて下ると6m滝が現れ、右岸から巻いて下る。左岸に岩峰を見る頃、悪い雪渓がつづき巻き連続となる。4m滝2段を過ぎると再び雪渓となり、3m滝が現れ巻いて下りる。亀裂の入った雪渓は左岸を巻いて行く。7m滝を左岸から巻いて下ると右沢との合流点である、16時。左沢は右沢と違い忙しいルートであった。17時15分、テント場にたどり着く。どうやら小金井山パーティーは持場沢と井戸の沢の出合いにテントを張っているようだ。焚火をつくって夕食とする。ゼンマイ小屋跡地は遮るものがなく星空の展望台である。夜は角瓶を飲みつつ満天の星空を眺めた。ゼンマイ採りの人達もこの星空を眺めたことだろう。

6月3日。7時30分、小金井山パーティーと合流する。今日は下るだけなので釣りを楽しむ井戸の沢左俣パーティーとともに行動する。蒲生川林道13時半着。初夏の井戸の沢左俣から展望の優れた922mへ登るコースは悪場もなく癒されるルートである。

左俣左沢左岸の岩塔

